

C-12 人工呼吸管理中の患者の鎮静法について—プロポフォール単独投与群とミダゾラム併用群の比較—

宮崎医科大学麻酔科 集中治療部

白阪哲朗 松岡博史 谷口正彦 濱川俊朗 高崎眞弓

【目的】人工呼吸管理中の鎮静薬としてプロポフォールが広く用いられている。当施設ではプロポフォールを 10 ml/hr で投与開始し、鎮静が不十分なときはミダゾラムを併用している。鎮静薬としてミダゾラムの併用を必要とする場合の背景について、プロポフォール単独で鎮静可能な場合と比較検討した。

【対象と方法】平成 12 年度に当集中治療部に入室し、人工呼吸管理を 7 日間以上必要とした患者 (22 名) を対象とした。プロポフォール単独で鎮静した P 群 (11 名) と、ミダゾラムと併用して鎮静した M 群 (11 名) に分けて患者背景を比較した。人工呼吸器の換気様式は SIMV と PSV とした。患者の鎮静レベルは Ramsay の鎮静スコアで 3 点 (命令にのみ反応) となるように投与量を調節した。群間の比較には t 検定を用いた。【結果】P 群の平均年齢は 61 歳、M 群は 57 歳で有意差はなかった。身長、体重も群間に差はなかった。プロポフォール投与速度は 10・15 ml/hr で、ミダゾラム投与速度は 0.5・2.0 ml/hr だった。P 群の平均人工呼吸管理日数と鎮静薬投与日数は、それぞれ 15 日間と 10 日間、M 群はそれぞれ 33 日間と 27 日間で、平均人工呼吸管理日数に対する鎮静薬投与日数の割合は、P 群が 68% に対し M 群が 82% で有意に高かった。M 群のミダゾラム併用開始はプロポフォール投与開始から平均 10 日目であった。基礎疾患として P 群の 3 名に肺炎を認め、M 群は 7 名に認めた。APATCH SCORE の平均値は、P 群が 19、M 群が 21 で両群間に有意差はなかった。鎮静薬投与日数と鎮静薬の関係を調べると、投与日数が 14 日間以内の場合は 80% (8/10) がプロポフォールのみで鎮静可能であり、ミダゾラムを併用した群 (20%) より有意に多

かった。投与日数が 15 日間以上の場合は、ミダゾラムを併用した群が 83% (10/12) で、プロポフォール単独投与群 (17%) より有意に多かった。プロポフォールの耐性発現については、一定した見解は得られていないが、本研究の場合、投与期間が比較的に長いいため耐性が生じたと考えられた。【結論】人工呼吸管理中の鎮静は、14 日間以内ならプロポフォール単独で鎮静できるが、それ以上長くなると耐性が生じ、ミダゾラムの併用が必要になることが示唆された。